

Team 山 商

令和元年 5 月 1 日

第 1 号

「非認知能力」をより重視した教育の推進

校長 小林 勝喜

現在、第 4 次産業革命の進展に伴って society5.0 と呼ばれる超スマート社会が訪れようとしている。「子供たちの 65%は大学卒業後、今は存在していない職業に就く」、「今後 10~20 年程度で、約 47%の仕事が自動化されている可能性が高い」などと海外の研究者が指摘してから、既に数年が経過した。こうした大きな変革期のあとに訪れる社会は、「予測不能社会」と言われている。21 世紀を生きる高校生は、こうした変化の激しい時代を生き抜くことができる資質・能力を身に付けることが求められているのである。

「認知能力」という言葉がある。これは、いわゆる「見える学力」のことで、学力テストや IQ（知能テスト）などで測れる力である。これに対して、「非認知能力」はペーパー試験などでは測りにくい力のことで、「見えない学力」と言い換えることができる。具体的には、主体性、協調性、コミュニケーション力、リーダーシップ、自己管理能力、自己肯定感などが挙げられる。これらの力は人間固有の能力であり、人工知能（いわゆる AI）では代替することができない力である。

AI やロボットによる自動化が急速に進展するこれからの社会においては、AI で代替できる「認知能力」よりも、人間固有の能力である「非認知能力」が重要になるとされている。国内のある研究者は、「非認知能力が人生の成功を左右する」と指摘しており、また、「非認知スキルを伸ばした方が、社会に出てからの平均収入が高い」という実証研究が海外で発表されている。

それでは「非認知能力」は、どうすれば身に付くのか。それは、机に向かって一人で獲得できるようなものではない。国内最高の講師による e ラーニングで身に付くものでもない。人と人との関わりの中で、はじめて身に付くものなのである。具体的には、ワークショップやグループワークなどの主体的で対話的な授業、学校行事や生徒会活動等のいわゆる特別活動、部活動、地域を舞台にした体験活動やボランティア活動などの地域活動が挙げられる。

本校は、「見える学力」と「見えない学力」のバランスに留意しつつ、「非認知能力」をより重視した教育活動を推進したいと考えている。つまり、山商は授業改善を図りつつ、特別活動・部活動・地域活動に対して、“これまでも、そして、これからも”力を入れて活動して行く所存である。

【新任者 11 名を迎えました】

校長	小林 勝喜 (こばやし かつよし)	【商業・情報／県青年の家所長から】
教頭	熊澤 和敏 (くまざわ かずとし)	【数学／山辺高校教頭から】
教諭	小松 英樹 (こまつ ひでき)	【商業／進路指導課・ソフトテニス部／霞城学園高校から】
教諭	齋藤 展希 (さいとう ひろき)	【地歴・公民／1年6組担任・バレーボール部／米沢工高から】
非常勤講師	山家 重之 (やまか しげゆき)	【地歴・公民】
非常勤講師	渡部 容子 (わたなべ ようこ)	【音楽】
非常勤講師	柴田 いくよ (しばた いくよ)	【商業】

事務次長	浅井 幹太 (あさい かんた)	【事務部／山形市まちづくり推進部都市政策課から】
管理係長	峯田 久美 (みねた くみ)	【事務部／山形市財政部納税課から】
技能主査	新関 正治 (にいぜき しょうじ)	【事務部／山形市立みはらしの丘小学校から】
技能技師	鈴木 一 (すずき はじめ)	【事務部／山形市農林部森林整備課から】

レスリング部全国選抜大会5位入賞！！

3月26日から29日にかけて、新潟体育館で開催された風間杯第62回全国高等学校選抜レスリング大会において、レスリング部が見事5位入賞を果たした。3回戦まで順当に勝ち上がり、準々決勝に進出したが、鳥栖工業高校にチームスコア2対5で残念ながら敗退した。全国大会5位入賞は、一昨年の地元インターハイ以来の入賞である。令和の新しい時代につながる大健闘であり、次の全国大会であるインターハイでは、是非、ベスト4以上をめざして奮闘して欲しい。

バスケ 藤井杯・高野杯 女子大逆転で12連覇

藤井杯・高野杯県高校バスケットボール選手権大会が、4月19日から21日まで、本校体育館や山形市総合スポーツセンターで行われた。女子は大逆転で山形中央高校を破り、連覇を12に伸ばした。決勝の前半終了時点で19点のビハインドを背負い、さすがの山商も逆転は難しいと思われた。しかし、ハーフタイムに選手同士が修正点を確認し合い、後半はベンチも一体となって猛攻を仕掛けた結果、逆転に成功。64-60で勝利した。前半は、常勝の重圧からか、まさに「自分に負ける」試合展開となったが、それを自分たちの力でひっくり返した。この勝利は大きい。この試合で得たものを糧に、インターハイやウィンターカップでは自分たちの力を120%出し切ってほしい。

男子は村山地区2部優勝の勢いを持続させ、2回戦で鶴岡南高校を78-39の大差で退けた。3回戦は目標としていた県大会ベスト8を懸け、強豪酒田南高校と対戦。終始、山商らしい全員バスケットで戦っていたが、残り数秒の同点シュートがゴールに嫌われ、55-57の1ゴール差で惜敗した。選手やベンチの爽やかな戦い振り、そして観客席の保護者の熱い応援に対して、周囲から温かい拍手が送られていた。県総体では、1年生の新戦力も加わる。活躍を期待したい。

明治に12名合格！ 平成30年度末進路 結果まとまる

中央.立教.法政など有力私大に多数合格

山形市役所3名など公務員現役合格者12名

学 科	性 別	生徒数	大 学		短期大学	各種専修	海外留学	進学予定	就 職				
			国公立	私立					県内	県外	公務員	自縁 當故	未定
総合ビジネス	男	51	1	11	1	13	1	0	17	1	6	0	0
	女	109	0	19	7	18	0	0	54	5	5	1	0
経 済	男	36	1	24	5	6	0	0	0	0	0	0	0
	女	44	1	31	3	8	0	0	1	0	0	0	0
国際コミュニケーション	男	6	0	2	1	1	1	0	0	0	1	0	0
	女	33	0	10	5	14	2	2	0	0	0	0	0
合計	男	93	2	37	7	20	2	0	17	1	7	0	0
	女	186	1	60	15	40	2	2	55	5	5	1	0
	総計	279	3	97	22	60	4	2	72	6	12	1	0

今春の卒業生の進路結果が、上記の様にまとまった。四年制大学への進学が36%、就職が32%、専門学校進学が22%、短大進学が8%という割合であった。山商は、県内高校の中で進路先が最も多様な学校の一つである。しかも、それぞれ高いレベルで進路実現している。これらは卒業生の最後まで諦めない努力と各進路先における同窓生の実績、そして、担当教職員の手厚いサポートの賜物である。